

アートキャンプ

日時／2009年9月20日(日)～23日(水)
場所／(旧)下竹田小学校(竹田市直入町)

夏も終わり秋の訪れを感じ始めた頃、芸短有志の学生と県内の高校生は、歴史を重ね今は廃校となった直入町の小学校でアートキャンプを行いました。

美しい自然の中で様々な人と寝食を共にし、制作に没頭したこの4日間は、私達にたくさんの思い出と刺激を与えてくれました。

普段関わることのない他大学生や高校生との時間の共有は、自身の制作意欲をかき立てられ、より良い制作のきっかけとなりました。

広い空間を必要とする立体造形や、廃校という空間そのものを利用した作品、竹田のあふれる緑をスケッチで残したり、自宅や学校では出来ない制作を思う存分に出来て嬉しかったです。トラブルもありましたが、竹田の方々と協力して乗り越えることが出来ました。

このアートキャンプを行うことにあたって、多くの方々に協力して頂いたことを感謝すると共に、今後、私たちの制作活動にアートキャンプでの貴重な体験を活かしていけたらと思います。

(学生代表 高橋留璃子)



600名の宴 天才の生涯に拍手 全学有志が結集 創作劇「AMADEUS ～モーツァルトの生涯～」

大分市コンパルホール、12月20日午後6時の開演には10代から70代まで400名以上の観客が来場、35年という短くも波乱の生涯を送った天才作曲家の物語を200名に及ぶスタッフ・キャストとともに楽しみました。演奏・歌唱の指導には音楽科の先生方の協力を仰ぎ、劇中のダンスは、身体表現の発表の場ともなり、全学共通教育科目として一歩前進することができました。

終演後、200名以上の感想が寄せられました。「ユニークなシナリオでリラックスして楽しめました(60代男性)」「色々な角度から音楽を感じることが出来大変勉強になりました(50代女性)」「弦楽四重奏が大変心に響きました(40代女性)」「もっと多くの場所で多くの人に見ていただきたい(40代男性)」「帰ってモーツァルトを聞きたいと思いました(20代女性)」「歌声がどれも素敵で癒されました(20代女性)」「歌や曲を時代背景と共に聞くことができたので倍楽しめた(20代女性)」



国際文化学科 国際理解ワークショップ「世界が30人の村だったら」

10月25日、iichiko総合文化センター中会議室で、国際文化学科玉井講師によるワークショップ「世界が30人の村だったら」を、2008年に引き続き開催しました。小学生や中学生、高校生も加わって、楽しみながら「世界の今」を体感しました。

●以下は参加者の声です。

「今回体験したことを通して、自分がどんなに裕福で幸せなのか実感しました。この体験を通して、国際理解をもっと深めたいと思いました」

「世界を30人にしてみると、色々な国があって地球が成り立っているということが、本当にすごいことなんだと思います。もっと世界に目を向けて、私たちが日本でできる活動に参加していきたいです」



▲世界の矛盾、貧富の差を体感



▲アジアは広いのかせまいのか



第45回 定期演奏会でピアノ協奏曲のソリストとして演奏して(10月12日)

メンデルスゾーン：カプリッチョ・ブリランテ 作品22

「コンチェルトをやってみない？」思えば全てはここから始まった気がします。オーディションといった形でソリストに選ばれたのですが、不安や期待など言っている暇もなく、本番まであっという間でした。本番中は、残念ながら鮮明な記憶が残っておりません。けれどもこの経験は私の一生の宝となりました。あんなに練習に悩み苦しんだのにまたやりたいと思うのが不思議です。最後にこの機会を与えて下さった関係者、先生方、特に石山先生には感謝を申し上げます。ありがとうございました。

(専攻科音楽専攻ピアノコース1年 山名 祥子)

ラフマニノフ：ピアノ協奏曲第2番 作品18

【第1楽章】

まずは、今回の定期演奏会にあたってご指導くださった先生方、指導者の森口先生、オーケストラの皆さんに感謝の気持ちを伝えたいです。今回ピアノコンチェルトのソリストを経験できたことは、私の学生生活においてかけがえのないものとなりました。なかでも、ソロとは違い、やはりオーケストラとの共演は難しく、悩む事もありました。良い勉強をさせていただいたと思っています。本番ではオーケストラの皆さんと一体となり、一番良い演奏になったのではないかと思います。貴重な経験をさせていただいたことたくさんの人への感謝の気持ちでいっぱいです。ありがとうございました。

(専攻科音楽専攻ピアノコース2年 越智可奈子)

【第2楽章】

私にとって定期演奏会で演奏させてもらったことは一生の思い出になりました。コンチェルトが出来ると思った時は、嬉しい反面、不安や悩みもたくさんありました。しかし、レッスンをいつも熱心にして下さったり精神的にも支えて下さった先生をはじめ、ピアノの先生方や指揮者の先生、オケの先生方やオケの皆さん、友だちや先輩方、たくさんの方に支えてもらったからこそ頑張れたし本当に楽しくて最高の本番を迎えることが出来たのだと思います。本当にありがとうございました。

(専攻科音楽専攻ピアノコース1年 山元 麻也)

【第3楽章】

これほどいろんな思いがあった本番は今までなかったと思います。本番までの道のりは喜怒哀楽いろんな感情があり、一日一日が濃くてあっという間でした。途中、挫折しそうになることもありましたが、本番を終え振り返ってみると全てがよい経験でした。この経験を次につなげることができたらと思います。最後になりましたが、ここまで支えてくださった皆様、本当にありがとうございました。

(専攻科音楽専攻ピアノコース2年 生野奈都美)



Bravo